



# 相談支援つうしん



県立湘南養護学校  
支援連携部 相談支援係  
令和4年9月5日(月)  
R4 第4号

## 「成長したがゆえに課題が見えてくる」

夏休み明けは、子どもたちが大きく成長したことを目の当たりにできる素敵な時期です。今回は、子どもたちの成長に伴って見えてくる課題についてお伝えします。

### 【子どもたちの発達】

子どもたちの発達には段階があり、周囲の状況を理解する力は「触ってわかる」「見てわかる」「言葉でわかる」といった順番に成長していきます。もちろん、昨日まで触って「これはなにかな？」と確認していたけど、「今日からは見ただけでこれが何かわかります」とはなりません。旅先で「ん？これ何？」と見知らぬ物を目にした時は、手で触って堅さとか重さとか触って確かめますよね。大人は成長過程で知り得た色々な情報から「これが何かな？」と当てはまるものを探し出します。同じように、「見てわかるようになったけど、難しい言葉で言われたら分からない」ことも起こります。外国旅行中に、トイレのマークは見付けることができるけど、「restroom」と言われても「何？トイレット？ じゃないの？」と慌てて、スマホの翻訳ソフトを立ち上げてしまいます。『言葉』とは、なかなか理解するのは難しいものですね。

### 【言葉の三つの役割】

言葉は「伝えること（伝達）」「それを使って考えること（思考）」「行動を調整すること」の役割があります。『言葉』とはイメージであり、イメージが共有化できるからこそ、いま目の前にないものを言われても何のことが伝わりますし「昨日・今日・明日」等の「時間」といった抽象的な内容も言葉によって表すことができます。

「言葉が分かりかけている段階」の子どもたちは、まだ言葉のみで周囲の状況を理解することは難しく、目の前にある物や毎日の習慣化された動作の記憶を頼りに周りの状況に対応しています。

そのことが「成長したがゆえの課題」として学校生活や家庭生活の中に現れてきます。

- 1 人・場所・予定の変更等、予測できない事態に対しては混乱しやすく、分からないことは拒否したり、場面の切り替えで不安定になったりすることがある。
- 2 日常生活での様々なことに対してのこだわり（物の位置や場所、やることの手順・こうでなければいけない等）や、思い通りにできなかった時に混乱することがある。
- 3 不快やストレスの要因を外部に求めることがある。（他害や誰かのせいにしてしまう等）

「言葉が分かりかけている段階」の子どもたちは、手で「触ってわかる」「見てわかる」力があるので、次の活動がイメージできる手がかりの用意をして、イメージできるようにやって見せることが大切です（納得するまでしばらく活動することを見せる等）。実際に、イメージができていないのか、本人に復唱させたり説明してもらったりすることで活動への理解度が分かります。

それ以外にも、不安になった時の自分なりのスキルを身に着けることがあります。例えば、お守りグッズ（スクイズ等）、許容される範囲でいつもしていることをする等。

また、具体的に望ましい行動を伝えて選択させ「○○してくれたら とてもうれしいけど・・・」「○○してくれてありがとう」等、評価していくことも良い方法です。

そして、学校での課題学習等では「目の前になく見えないものをイメージさせる学習」の積み重

ねによって、イメージ化できる言葉が増えてきて、状況の理解や未来の予測ができるようになり、そのことは言葉の働きの3つめである「行動を調整する働き」へとつながっていきます。

次回にまた続きをお話したいです。



### 【ちょっと休憩】私の家族…その7

「母の趣味」についてお話しします。



この夏、「母、我が家に帰る。つもりが帰れず。。。」

お盆前日に施設先から連絡があり、母がコロナ濃厚接触の可能性があり今回の帰宅は延期ということになりました。心のどこかで「やった!」と小さくガッツポーズをしている私がありました…。もちろん、そうってしまう後ろめたさもありますが、やっぱり。。嬉しいのです。

その後、母は陰性が証明され施設先では元気で過ごしているようです（ひと安心）。母の誕生日も近かったので、母のお気に入りの洋服を買い、好きな雑誌を母に送りました。ちょっと、ダークサイドの私が出てしまったので、ほんのお詫びの印です（笑）。

さて、母は花が好きで、よく実家の庭の花を一輪挿しに生けたり、お店で買ったお花を仏壇や床の間に生けたりしていました。また、取ってきた花を押し花にして、額に入れて飾っていました。

そんなこともあり、母が我が家に来た時には、母の部屋とつながっているベランダにプランターを用意してお花を育てていました。週末に近くの苗屋さんに行ったら、「どのお花がいいかしらね～」と言いながら、沢山好きなお花の苗を選んではおごに入れていました。お花の名前もよく覚えていて「これは、シュウメイギク、これは矢車草」等と教えてくれました。

過去に覚えたお花の名前の記憶をいつまでも覚えていられるようなことを長期記憶といいます。洋服の着かたや自分の家の電話番号等、生きていく上で必要なものや、楽しい思い出、興味関心のあることほど長期記憶化しやすいと言われています。

反面、ちょっとの間だけ覚えている短期記憶というものがあります。例えば、今日はやることリストはその短期記憶の一つです。今日やることリストは、楽しいことを優先するという性質があるようで、「夏休みの宿題は後回しになってしまいやすい」とテレビ番組の「〇〇ちゃんに叱られる」で説明されていました。だから、「ちょっと嫌だな」と思う内容をした後に楽しいことを用意するといひそうです。あー、もうちょっと早くに教えて欲しかった（笑）。

さて、買い物が終わって母と家に帰り、お茶とおやつを食べてやれやれ一息付き、「さあ、お花を植えよう」と声をかけると「後はやっといて」と母はテレビを見ています。買ってきたお花たちは、みなさんのご想像通り、私に預けられることとなります。やれやれ…出来上がったところに「あー、きれいになっているじゃない。」と上から目線でご満悦（まあ、想定内だけどね）。

母のように、趣味（好きなこと）をしている時、脳の中では好奇心旺盛な状況になり楽しい気持ちになるドーパミンという物質が出てきます。ドーパミンは、「やる気が出る・記憶力を良くする・集中力が上がる・脳を覚醒する・気分を前向きにする」といった効果もあると言われています。

子どもたちの生活の中でも、好きなことを増やすことはとても重要なことだと考えています。持ち運びやすい小さな読み物（トミカやアンパンマン・電車等の図鑑・お菓子の本等）、握るおもちゃ、パズル、調理、スポーツ、音楽、制作活動等、一人でできるものが増えていくといいなと思っています。

文責橋爪